

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-60978

(P2016-60978A)

(43) 公開日 平成28年4月25日(2016.4.25)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 1 C 1/00 (2006.01)	A 4 1 C 1/00 E	3 B 1 3 1
A 6 1 F 5/02 (2006.01)	A 6 1 F 5/02 K	4 C 0 9 8

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2014-187918 (P2014-187918)	(71) 出願人	597130258
(22) 出願日	平成26年9月16日 (2014. 9. 16)		株式会社ユー
			京都府京都市南区上鳥羽高島町 1 0 5 - 3
		(74) 代理人	100079625
			弁理士 中島 正
		(72) 発明者	▲土▼屋 八大
			京都府京都市南区上鳥羽高島町 1 0 5 - 3
			株式会社ユー内
		(72) 発明者	片岡 美代子
			京都府京都市南区上鳥羽高島町 1 0 5 - 3
			株式会社ユー内
		F ターム (参考)	3B131 AA03 AA08 AB14 BA12 BA41
			BB15 BB17 BB36 CA34
			4C098 AA02 BB08 BC03 BC04 BC13
			BC17 BC45 BD15

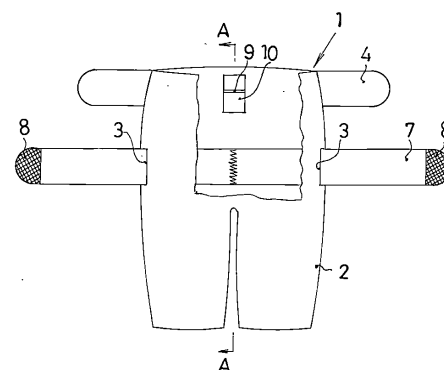
(54) 【発明の名称】 骨盤サポート装具

(57) 【要約】

【課題】本発明は、人体の腸骨・仙骨・股関節に当てがいつつ弾発力でもって骨盤を正しい位置に矯正的にサポートせしめ、運動機能を有効に発揮せしめることが出来る、各種スポーツのアスリートに好適な骨盤サポート装具を提供する。

【解決手段】腰部 1 2 と大腿部 1 3 を覆う伸縮性スパッツ体 2 と、両腸骨 1 6 と仙骨 1 7 を覆うべく該スパッツ体 2 背部外面に縫着された上段非弾性ベルト 4 と、両股関節 1 9 と両腸骨 1 6 を覆うべくスパッツ体 1 背部内面に縫着され、その両自由端が各々スパッツ体 2 の両側外方に突設されてなる下段弾性ベルト 7 とよりなり、上記スパッツ体 2 を人体に着用せしめ、上段非弾性ベルト 4 の両自由端を各々両腸骨 1 6 および仙骨 1 7 に沿って腰部に巻付けると共に、下段弾性ベルト 7 の両自由端を各々両股関節 1 9 から両腸骨 1 6 に沿って交差状に引張せしめつつ、上段非弾性ベルト 4 に係着部材 5・8 を介して係着せしめるべく構成されている。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

腰部および大腿部を覆うべく両側一対のベルト挿通口付き伸縮性スパッツ体と、両腸骨および仙骨を覆うべく該スパッツ体背部の外周中心に沿って略スポット状に縫着された上段非弾性ベルトと、両股関節および両腸骨を覆うべくスパッツ体背部の内周中心に沿って略スポット状に縫着されると共に、その両自由端がベルト挿通口を通して各々外方に突設せしめられてなる下段弾性ベルトとよりなり、上記スパッツ体を人体に着用せしめつつ、上段非弾性ベルトの両自由端を各々両腸骨および仙骨に沿って腰部に巻付けると共に、下段弾性ベルトの両自由端を各々両股関節から両腸骨に沿って交差状に引張せしめつつ、対応する上段非弾性ベルトに係着部材を介して係着せしめるべく構成されてなることを特徴とする、骨盤サポ - ト装具。

10

【請求項 2】

上段非弾性ベルトの両自由端外面には下段弾性ベルトの係着位置決め用目盛部が各々形成されてなることを特徴とする、請求項 1 記載の骨盤サポ - ト装具。

【請求項 3】

スパッツ体の背部内面には仙腸関節をサポ - トすべく仙骨サポ - タ - が取着されてなることを特徴とする、請求項 1 または 2 記載の骨盤サポ - ト装具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、骨盤サポ - ト装具に関し、さらに詳細には、骨盤を常に正しい位置に矯正的にサポ - トせしめつつ運動機能を有効に発揮せしめることが出来る、各種スポーツのアスリートに好適な骨盤サポ - ト装具に関する。

20

【背景技術】**【0002】**

一般に、現代人の大半は、運動不足による筋肉の弱体化と悪い姿勢の多い生活習慣により骨盤が開いて後に傾斜している方が多く見受けられる。更に、中でも各種のスポーツのアスリートには、競技によって差があるものの過度な運動などにより慢性的に腰痛を抱えている比率が極めて高いことも一般的に知られている。そして、腰痛だけにとどまらず様々な慢性病を併発することが指摘されている。

30

【0003】

ところで、かかる骨盤を矯正するサポ - ト装具としては、本願出願人が先に開示した骨盤矯正ベルト、即ち、弾性を有する布地製でかつ主として腸骨および仙腸関節を覆う上段ベルト片と、同弾性を有する布地製でかつ主として股関節を覆う下段ベルト片とを備え、該上下段ベルト片の両端部は各々重合状態に結合されると共に、中間部分は複数の弾性を有する布地製連結片により互いに連結され、かつ、上下段ベルト片の両端結合部どうしが係着部材を介して着脱自在に連結すべく構成された基本構成を有する、骨盤矯正ベルトが知られている（特許文献 1、特許文献 2、特許文献 3 参照）。

【0004】

そして、上述の如く構成された従来例は、上下段ベルト片を各々人体の腸骨・仙腸関節・股関節個所に当てがいつつ、上下段ベルト片の両端結合部どうしを係着部材により適度の締付け力でもって連結せしめることにより装着し、骨盤を常に正しい位置に安定せしめて矯正せしめるものである。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0005】**

【特許文献 1】特開平 11 - 56887 号公報

【特許文献 2】特開 2001 - 87295 号公報

【特許文献 3】特開 2010 - 115303 号公報

【発明の概要】

50

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

ところで、上記従来例は、単に弾性を有する2本の上下段ベルト片を人体の腸骨・仙腸関節・股関節個所に当てがいつつその弾発力により締付けて矯正的にサポ - トするもので、肌に直接着用するものであるため着用後のサイズ調節などが困難であることと、腰の左右から4本の巾広い弾性ベルト片で緊締するため、装着後は表面にひびく（上着の表面に下着の形が出て見苦しいこと）という難点があった。また、従来例では大腿部に弾性ベルト片のずりあがりを防ぐ幅7cmで面ファスナ - を用いて留める機能が備えてあるが、アスリ - トにとっては妨げになると共に美的感覚に欠けるという難点があった。

【0007】

本発明は、従来例の課題を解決し、特に、アスリ - ト用に適した1本の下段弾性ベルトで両腸骨並びに両股関節の4点を同時にサポ - トする構造となっている上に、競技中でも必要に応じて上段非弾性ベルトと下段弾性ベルトは係着部材の調節で緊締パワ - の変更が容易に出来るものである。また、伸縮性のスパッツ体を用いることで下段弾性ベルトの位置がずり上がることがなくなった。そのため、人体の腸骨・仙骨・股関節個所に各々当てがいつつ適正な弾発力でもって常に骨盤を正しい位置に矯正的にサポ - トせしめ、スムーズに運動機能を有効に発揮せしめることが出来る、各種スポ - ツのアスリ - トに好適な骨盤サポ - ト装具を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記の課題を解決するため、本願請求項1記載の発明は、腰部および大腿部を覆うべく両側一对のベルト挿通口付き伸縮性スパッツ体と、両腸骨および仙骨を覆うべく該スパッツ体背部の外周中心に沿って略スポット状に縫着された上段非弾性ベルトと、両股関節および両腸骨を覆うべくスパッツ体背部の内周中心に沿って略スポット状に縫着されると共に、その両自由端がベルト挿通口を通して各々外方に突設せしめられてなる下段弾性ベルトとよりなり、上記スパッツ体を人体に着用せしめつつ、上段非弾性ベルトの両自由端を各々両腸骨および仙骨に沿って腰部に巻付けると共に、下段弾性ベルトの両自由端を各々両股関節から両腸骨に沿って交差状に引張せしめつつ、対応する上段非弾性ベルトに係着部材を介して係着せしめるべく構成されてなることを特徴とする、骨盤サポ - ト装具を要旨とするものである。

【0009】

本願請求項2記載の発明は、上段非弾性ベルトの両自由端外面には下段弾性ベルトの係着位置決め用目盛部が各々形成されてなることを特徴とする、請求項1記載の骨盤サポ - ト装具を要旨とするものである。

【0010】

本願請求項3記載の発明は、スパッツ体の背部内面には仙腸関節をサポ - トすべく仙骨サポ - タ - が取着されてなることを特徴とする、請求項1または2記載の骨盤サポ - ト装具を要旨とするものである。

【発明の効果】

【0011】

本発明の請求項1記載の発明は、上述のように構成されているから、特に、アスリ - ト用に適した1本の下段弾性ベルトで両腸骨並びに両股関節の4点を同時にサポ - トする構造となっている上に、競技中でも必要に応じて上段非弾性ベルトと下段弾性ベルトは係着部材の調節で緊締パワ - の変更が容易に出来るものである。また、伸縮性のスパッツ体を用いることで下段弾性ベルトの位置がずり上がることがなくなった。そのため、上段非弾性ベルトおよび下段弾性ベルトを人体の各々腸骨・仙骨・股関節に当てがいつつ、交差状に引張する下段弾性ベルトの適正な弾発力でもって骨盤を正しい位置に矯正的にサポ - トせしめ、スムーズに運動機能を有効に発揮せしめることが出来るのみならず、良好な着用感を呈するものである。

【0012】

本発明の請求項 2 記載の発明は、上述のように構成されているから、下段弾性ベルトは目盛部を目印として引張せしめつつ上段非弾性ベルトに係着せしめることが出来るものであって、常に下段弾性ベルトの弾発力を調整せしめつつ容易に、しかも適正位置に係着せしめることが出来るものである。

【 0 0 1 3 】

本発明の請求項 3 記載の発明は、上述のように構成されているから、仙骨サポ - タ - を仙腸関節に当てがいつつ有効にサポ - トすることが出来るものである。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 4 】

【 図 1 】 本発明の一実施例を示す一部を破砕した正面図である。

10

【 図 2 】 本発明の一実施例を示す背面図である。

【 図 3 】 図 1 の A - A 線に沿う一部拡大断面図である。

【 図 4 】 実施例のスパッツ体 2 を着用せしめつつ、上段非弾性ベルト 4 の一端に下段弾性ベルト 7 の一端に係着せしめた使用状態を示す正面図である。

【 図 5 】 実施例のスパッツ体 2 を着用せしめつつ、下段弾性ベルト 7 を交差状に引張せしめて上段非弾性ベルト 4 に係着せしめた使用状態を示す正面図である。

【 図 6 】 図 5 に示す使用状態の背面図である。

【 図 7 】 図 5 に示す使用状態の側面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 5 】

20

以下に、本発明を実施するための形態を図面に示す一実施例に基づいて説明する。

【 0 0 1 6 】

図 1 ~ 図 7 は本発明の一実施例を示すもので、同図中、1 は骨盤サポ - ト装具、2 は該骨盤サポ - ト装具 1 を構成する伸縮性スパッツ体で、該スパッツ体 2 は後記する人体 1 1 の腰部 1 2 および大腿部 1 3 を覆う大きさにスパンテックスなどの伸縮性素材でもって形成されると共に、両側に一对のベルト挿通口 3 が形成されている。4 は後記する人体 1 1 の両腸骨 1 6 および仙骨 1 7 を覆うべく該スパッツ体 2 の背部外面中心に沿って略スポット状に縫着された布地製の上段非弾性ベルト、5 は該上段非弾性ベルト 4 の外面に止着された雄面ファスナ - 、6 は該雄面ファスナ - 5 の両端部に各々形成された後記する下段弾性ベルト 7 の係着位置決め用目盛部で、該上段非弾性ベルト 4 の寸法は、例えば、M 寸基準として幅が約 8 c m、長さは縫着点を中心として左右に約 3 0 c m に設定せしめるとよい。7 は後記する人体 1 1 の両股関節 1 9 および両腸骨 1 6 を覆うべくスパッツ体 2 の背部内面中心に沿って略スポット状に縫着された下段弾性ベルト、8 は上記上段非弾性ベルト 4 の雄面ファスナ - 5 に係着せしめるべく該下段弾性ベルト 7 の両端内面に各々止着された雌面ファスナ - で、該下段弾性ベルト 7 はポリウレタン繊維やアクリル繊維などの弾性繊維でもって形成されると共に、該下段弾性ベルト 7 の寸法は、例えば、M 寸基準として幅が約 8 c m、長さは縫着点を中心として左右に約 3 8 c m に設定せしめるとよい。9 は後記する仙腸関節 1 8 をサポ - トすべくスパッツ体 2 の背部内面にポケット部材 1 0 を介して取着されたシリコンなどの弾性部材よりなる仙骨サポ - タ - である。

30

【 0 0 1 7 】

40

その他、1 1 は人体、1 2 は該人体 1 1 の腰部、1 3 は大腿部、1 4 は骨盤、1 5 は腰椎、1 6 は腸骨、1 7 は仙骨、1 8 は仙骨関節、1 9 は股関節、2 0 は大腿骨、2 1 は恥骨結合部を各々示す。

【 0 0 1 8 】

そして、上述の如く構成された骨盤サポ - ト装具 1 は、図 4 ~ 図 7 に図示するように、先ず、スパッツ体 2 を人体 1 1 に着用せしめ、腰部 1 2 および大腿部 1 3 を被覆せしめると共に、仙骨サポ - タ - 9 を仙腸関節 1 8 に当てがいつつサポ - トせしめる。しかるのち、上段非弾性ベルト 4 の両自由端を各々対応する両腸骨 1 6 および仙骨 1 7 に当てがいつつスパッツ体 2 の前部がわに巻付けると共に、下段弾性ベルト 7 の両自由端を各々両股関節 1 9 から両腸骨 1 6 に沿って交差状に引張せしめ、その交差部に恥骨結合部 2 1 を挟み

50

こみつ対応する上段非弾性ベルト４の自由端に雌雄面ファスナ－５・８を介して緊締状に係着せしめることにより装着せしめる。

【００１９】

このさい、骨盤サポ－ト装具１は着用する伸縮性のスパッツ体２により腰部１１と大腿部１３に安定的に支持せしめることが出来るもので、下段弾性ベルト７の位置がずり上るおそれがないのみならず、仙骨サポ－タ－９により仙腸関節１８を有効にサポ－トすることが出来るものである。また、上段非弾性ベルト４を両腸骨１６および仙骨１７に当てがいつつ、下段弾性ベルト７を両股関節１９から両腸骨１６に沿って交差状に引張せしめ、上段非弾性ベルト４に緊締状に係着せしめるものであるから、常に人体１１の骨盤１４、特に両腸骨１６並びに両股関節１９を同時に左右から引張する下段弾性ベルト７の両自由端でもって４点（両腸骨１６と両股関節１９）を矯正的にサポ－トせしめることが出来るものであり、ひいては、各種スポ－ツにおけるアスリ－トのスム－ズな運動機能を有効に発揮せしめることが出来るものである。さらに、下段弾性ベルト７の係着は上段非弾性ベルト４の目盛部６を目印として弾発力を調整せしめつつ容易に、しかも適正位置に係着せしめることが出来るのみならず、競技中においても必要に応じて適宜下段弾性ベルト７との係着位置を変更せしめて緊締力を調整することが出来るものである。

10

【００２０】

なお、上記実施例において、上段非弾性ベルト４と下段弾性ベルト７の係着は雌雄面ファスナ－５・８により行なうものとされているが、これに限定されるものではなく、例えば、雌雄カギホックなど公知の係着部材を使用してもよいものである。

20

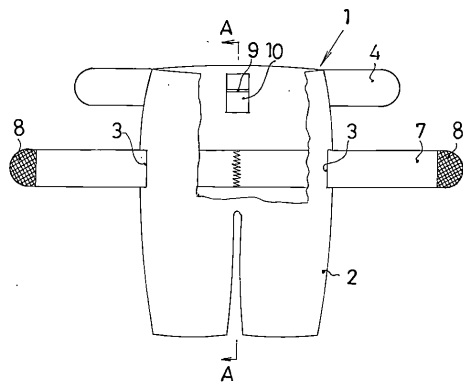
【符号の説明】

【００２１】

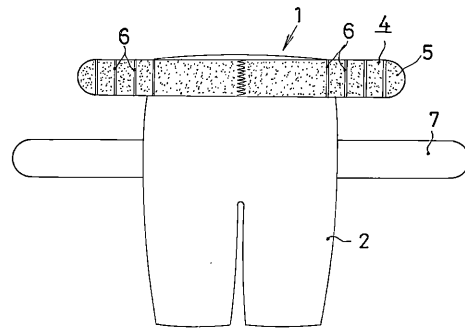
- １ 骨盤サポ－ト装具
- ２ スパッツ体
- ３ ベルト挿通口
- ４ 上段非弾性ベルト
- ５ 雄面ファスナ－
- ６ 目盛部
- ７ 下段弾性ベルト
- ８ 雌面ファスナ－
- ９ 仙骨サポ－タ－
- １１ 人体
- １２ 腰部
- １３ 大腿部
- １４ 骨盤
- １６ 腸骨
- １７ 仙骨
- １８ 仙腸関節
- １９ 股関節

30

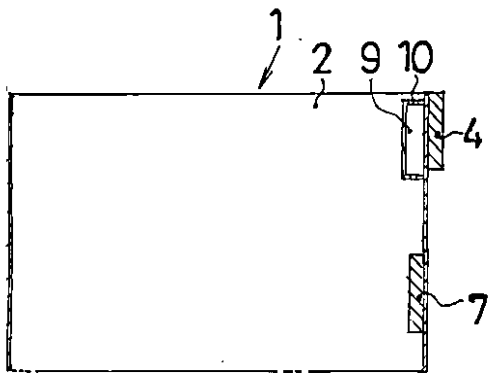
【図 1】



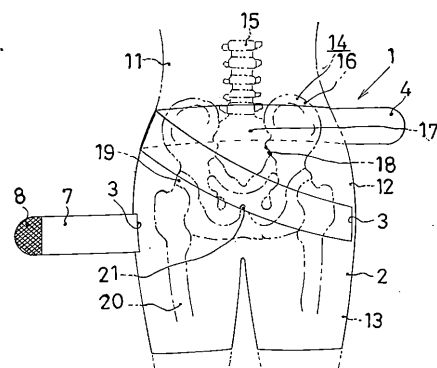
【図 2】



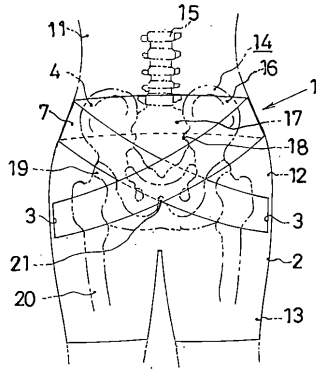
【図 3】



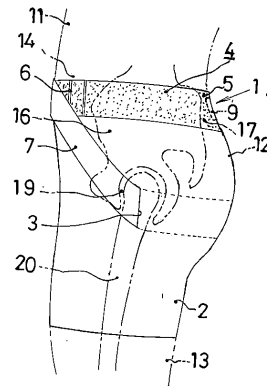
【図 4】



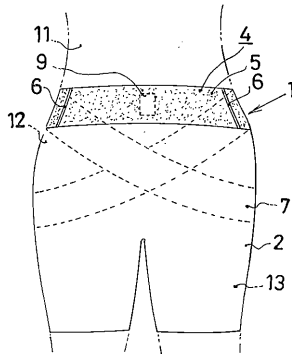
【図 5】



【図 7】



【図 6】



【手続補正書】

【提出日】平成27年12月4日(2015.12.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

腰部および大腿部を覆うべく両側一対のベルト挿通口付き伸縮性スパッツ体と、両腸骨および仙骨を覆うべく該スパッツ体背部の外面中心に一部が縫着されると共に両端が自由端とされてなる係着部材付き上段非弾性ベルトと、両股関節および両腸骨を覆うべくスパッツ体背部の内面中心に一部が縫着されると共に両端が自由端され、該両自由端がベルト挿通口を通して各々外方に突設せしめられてなる係着部材付き下段弾性ベルトとよりなり、上記スパッツ体を人体に着用せしめつつ、上段非弾性ベルトの両自由端を各々両腸骨および仙骨に沿って腰部に巻付けると共に、下段弾性ベルトの両自由端を各々両股関節から両腸骨に沿って交差状に引張せしめつつ、対応する上段非弾性ベルトに係着部材を介して係着せしめるべく構成されてなることを特徴とする、骨盤サポート装具。

【請求項 2】

上段非弾性ベルトの両自由端外面には下段弾性ベルトの係着位置決め用目盛部が各々形成されてなることを特徴とする、請求項 1 記載の骨盤サポート装具。

【請求項 3】

スパッツ体の背部内面には仙腸関節をサポートすべく仙骨サポーターが取着されてなることを特徴とする、請求項 1 または 2 記載の骨盤サポート装具。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、骨盤サポ_ート装具に関し、さらに詳細には、骨盤を常に正しい位置に矯正的にサポ_ートせしめつつ運動機能を有効に発揮せしめることが出来る、各種スポ_ーツのアスリ_ートに好適な骨盤サポ_ート装具に関する。

【背景技術】

【0002】

一般に、現代人の大半は、運動不足による筋肉の弱体化と悪い姿勢の多い生活習慣により骨盤が開いて後に傾斜している方が多く見受けられる。更に、中でも各種のスポ_ーツのアスリ_ートには、競技によって差があるものの過度な運動などにより慢性的に腰痛を抱えている比率が極めて高いことも一般的に知られている。そして、腰痛だけにとどまらず様々な慢性病を併発することが指摘されている。

【0003】

ところで、かかる骨盤を矯正するサポ_ート装具としては、本願出願人が先に開示した骨盤矯正ベルト、即ち、弾性を有する布地製でかつ主として腸骨および仙腸関節を覆う上段ベルト片と、同弾性を有する布地製でかつ主として股関節を覆う下段ベルト片とを備え、該上下段ベルト片の両端部は各々重合状態に結合されると共に、中間部分は複数の弾性を有する布地製連結片により互いに連結され、かつ、上下段ベルト片の両端結合部どうしが係着部材を介して着脱自在に連結すべく構成された基本構成を有する、骨盤矯正ベルトが知られている（特許文献1、特許文献2、特許文献3参照）。

【0004】

そして、上述の如く構成された従来例は、上下段ベルト片を各々人体の腸骨・仙腸関節・股関節個所に当てがいつつ、上下段ベルト片の両端結合部どうしを係着部材により適度の締付け力をもって連結せしめることにより装着し、骨盤を常に正しい位置に安定せしめて矯正せしめるものである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開平11-56887号公報

【特許文献2】特開2001-87295号公報

【特許文献3】特開2010-115303号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

ところで、上記従来例は、単に弾性を有する2本の上下段ベルト片を人体の腸骨・仙腸関節・股関節個所に当てがいつつその弾発力により締付けて矯正的にサポ_ートするもので、肌に直接着用するものであるため着用後のサイズ調節などが困難であることと、腰の左右から4本の巾広い弾性ベルト片で緊締するため、装着後は表面にひびく（上着の表面に下着の形が出て見苦しいこと）という難点があった。また、従来例では大腿部に弾性ベルト片のずりあがりを防ぐ幅7cmで面ファスナ_ーを用いて留める機能が備えてあるが、アスリ_ートにとっては妨げになると共に美的感覚に欠けるという難点があった。

【0007】

本発明は、従来例の課題を解決し、特に、アスリ_ート用に適した1本の下段弾性ベルトで両腸骨並びに両股関節の4点を同時にサポ_ートする構造となっている上に、競技中でも必要に応じて上段非弾性ベルトと下段弾性ベルトは係着部材の調節で緊締パワ_ーの変更が

容易に出来るものである。また、伸縮性のスパッツ体を用いることで下段弾性ベルトの位置がずり上がることがなくなった。そのため、人体の腸骨・仙骨・股関節個所に各々当てがいつつ適正な弾発力でもって常に骨盤を正しい位置に矯正的にサポートせしめ、スムーズに運動機能を有効に発揮せしめることが出来る、各種スポーツのアスリートに好適な骨盤サポート装具を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記の課題を解決するため、本願請求項1記載の発明は、腰部および大腿部を覆うべく両側一对のベルト挿通口付き伸縮性スパッツ体と、両腸骨および仙骨を覆うべく該スパッツ体背部の外面中心に一部が縫着されると共に両端が自由端とされてなる係着部材付き上段非弾性ベルトと、両股関節および両腸骨を覆うべくスパッツ体背部の内面中心に一部が縫着されると共に両端が自由端とされ、該両自由端がベルト挿通口を通して各々外方に突設せしめられてなる係着部材付き下段弾性ベルトとよりなり、上記スパッツ体を人体に着用せしめつつ、上段非弾性ベルトの両自由端を各々両腸骨および仙骨に沿って腰部に巻付けると共に、下段弾性ベルトの両自由端を各々両股関節から両腸骨に沿って交差状に引張せしめつつ、対応する上段非弾性ベルトに係着部材を介して係着せしめるべく構成されてなることを特徴とする、骨盤サポート装具を要旨とするものである。

【0009】

本願請求項2記載の発明は、上段非弾性ベルトの両自由端外面には下段弾性ベルトの係着位置決め用目盛部が各々形成されてなることを特徴とする、請求項1記載の骨盤サポート装具を要旨とするものである。

【0010】

本願請求項3記載の発明は、スパッツ体の背部内面には仙腸関節をサポートすべく仙骨サポーターが取着されてなることを特徴とする、請求項1または2記載の骨盤サポート装具を要旨とするものである。

【発明の効果】

【0011】

本発明の請求項1記載の発明は、上述のように構成されているから、特に、アスリート用に適した1本の下段弾性ベルトで両腸骨並びに両股関節の4点を同時にサポートする構造となっている上に、競技中でも必要に応じて上段非弾性ベルトと下段弾性ベルトは係着部材の調節で緊締パワーの変更が容易に出来るものである。また、伸縮性のスパッツ体を用いることで下段弾性ベルトの位置がずり上がることがなくなった。そのため、上段非弾性ベルトおよび下段弾性ベルトを人体の各々腸骨・仙骨・股関節に当てがいつつ、交差状に引張する下段弾性ベルトの適正な弾発力でもって骨盤を正しい位置に矯正的にサポートせしめ、スムーズに運動機能を有効に発揮せしめることが出来るのみならず、良好な着用感を呈するものである。

【0012】

本発明の請求項2記載の発明は、上述のように構成されているから、下段弾性ベルトは目盛部を目印として引張せしめつつ上段非弾性ベルトに係着せしめることが出来るものであって、常に下段弾性ベルトの弾発力を調整せしめつつ容易に、しかも適正位置に係着せしめることが出来るものである。

【0013】

本発明の請求項3記載の発明は、上述のように構成されているから、仙骨サポーターを仙腸関節に当てがいつつ有効にサポートすることが出来るものである。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本発明の一実施例を示す一部を破砕した正面図である。

【図2】本発明の一実施例を示す背面図である。

【図3】図1のA-A線に沿う一部拡大断面図である。

【図4】実施例のスパッツ体2を着用せしめつつ、上段非弾性ベルト4の一端に下段弾性

ベルト 7 の一端を係着せしめた使用状態を示す正面図である。

【図 5】実施例のスパッツ体 2 を着用せしめつつ、下段弾性ベルト 7 を交差状に引張せしめて上段非弾性ベルト 4 に係着せしめた使用状態を示す正面図である。

【図 6】図 5 に示す使用状態の背面図である。

【図 7】図 5 に示す使用状態の側面図である。

【発明を実施するための形態】

【0015】

以下に、本発明を実施するための形態を図面に示す一実施例に基づいて説明する。

【0016】

図 1 ~ 図 7 は本発明の一実施例を示すもので、同図中、1 は骨盤サポート装具、2 は該骨盤サポート装具 1 を構成する伸縮性スパッツ体で、該スパッツ体 2 は後記する人体 11 の腰部 12 および大腿部 13 を覆う大きさにスパンテックスなどの伸縮性素材でもって形成されると共に、両側に一对のベルト挿通口 3 が形成されている。4 は後記する人体 11 の両腸骨 16 および仙骨 17 を覆うべく該スパッツ体 2 の背部外面中心に一部が縫着されると共に両端が自由端とされてなる布地製の上段非弾性ベルト、5 は該上段非弾性ベルト 4 の外面に止着された雄面ファスナー、6 は該雄面ファスナー 5 の両端部に各々形成された後記する下段弾性ベルト 7 の係着位置決め用目盛部で、該上段非弾性ベルト 4 の寸法は、例えば、M 寸基準として幅が約 8 cm、長さは縫着点を中心として左右に約 30 cm に設定せしめるとよい。7 は後記する人体 11 の両股関節 19 および両腸骨 16 を覆うべくスパッツ体 2 の背部内面中心に一部が縫着されると共に両端が自由端とされ、該両自由端がベルト挿通口 3 を通して各々外方に突設されてなる下段弾性ベルト、8 は上記上段非弾性ベルト 4 の雄面ファスナー 5 に係着せしめべく該下段弾性ベルト 7 の両端内面に各々止着された雌面ファスナーで、該下段弾性ベルト 7 はポリウレタン繊維やアクリル繊維などの弾性繊維でもって形成されると共に、該下段弾性ベルト 7 の寸法は、例えば、M 寸基準として幅が約 8 cm、長さは縫着点を中心として左右に約 38 cm に設定せしめるとよい。9 は後記する仙腸関節 18 をサポートすべくスパッツ体 2 の背部内面にポケット部材 10 を介して取着されたシリコンなどの弾性部材よりなる仙骨サポーターである。

【0017】

その他、11 は人体、12 は該人体 11 の腰部、13 は大腿部、14 は骨盤、15 は腰椎、16 は腸骨、17 は仙骨、18 は仙骨関節、19 は股関節、20 は大腿骨、21 は恥骨結合部を各々示す。

【0018】

そして、上述の如く構成された骨盤サポート装具 1 は、図 4 ~ 図 7 に図示するように、先ず、スパッツ体 2 を人体 11 に着用せしめ、腰部 12 および大腿部 13 を被覆せしめると共に、仙骨サポーター 9 を仙腸関節 18 に当てがいつつサポートせしめる。しかるのち、上段非弾性ベルト 4 の両自由端を各々対応する両腸骨 16 および仙骨 17 に当てがいつつスパッツ体 2 の前部がわに巻付けると共に、下段弾性ベルト 7 の両自由端を各々両股関節 19 から両腸骨 16 に沿って交差状に引張せしめ、その交差部に恥骨結合部 21 を挟みこみつつ対応する上段非弾性ベルト 4 の自由端に雌雄面ファスナー 5・8 を介して緊締状に係着せしめることにより装着せしめる。

【0019】

このさい、骨盤サポート装具 1 は着用する伸縮性スパッツ体 2 により腰部 11 と大腿部 13 に安定的に支持せしめることが出来るもので、下段弾性ベルト 7 の位置がずり上るおそれがないのみならず、仙骨サポーター 9 により仙腸関節 18 を有効にサポートすることが出来るものである。また、上段非弾性ベルト 4 を両腸骨 16 および仙骨 17 に当てがいつつ、下段弾性ベルト 7 を両股関節 19 から両腸骨 16 に沿って交差状に引張せしめ、上段非弾性ベルト 4 に緊締状に係着せしめるものであるから、常に人体 11 の骨盤 14、特に両腸骨 16 並びに両股関節 19 を同時に左右から引張する下段弾性ベルト 7 の両自由端でもって 4 点（両腸骨 16 と両股関節 19）を矯正的にサポートせしめることが出来るものであり、ひいては、各種スポーツにおけるアスリートのスムーズな運動機能を有効に

発揮せしめることが出来るものである。さらに、下段弾性ベルト 7 の係着は上段非弾性ベルト 4 の目盛部 6 を目印として弾発力を調整せしめつつ容易に、しかも適正位置に係着せしめることが出来るのみならず、競技中においても必要に応じて適宜下段弾性ベルト 7 との係着位置を変更せしめて緊締力を調整することが出来るものである。

【 0 0 2 0 】

なお、上記実施例において、上段非弾性ベルト 4 と下段弾性ベルト 7 の係着は雌雄面ファスナー 5・8 により行なうものとされているが、これに限定されるものではなく、例えば、雌雄カギホックなど公知の係着部材を使用してもよいものである。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 1 】

- 1 骨盤サポーター装具
- 2 スパッツ体
- 3 ベルト挿通口
- 4 上段非弾性ベルト
- 5 雄面ファスナー
- 6 目盛部
- 7 下段弾性ベルト
- 8 雌面ファスナー
- 9 仙骨サポーター
- 1 1 人体
- 1 2 腰部
- 1 3 大腿部
- 1 4 骨盤
- 1 6 腸骨
- 1 7 仙骨
- 1 8 仙腸関節
- 1 9 股関節